

駅は繋ぐ

Vol.1
November, 2009



▲電車の往来を静かに見守り
続けてきた駅ビルの窓



▼昭和の風情を残す駅ビル

駅ビルが静かに見守り続けてきたこの50年。駅周辺も、かつてのにぎわいを失ってしまいました。
また、この間世の中のさまざまなものが姿を変えてゆきました。
自動車普及率の増加や車体の大型

現在の駅は、駅ビルが昭和33年に建築されて以来、長年岡崎市の玄関口として親しまれ、多くの人の移動や交流を支えてきました。

岡崎市明大寺本町にある、名古屋鉄道名古屋本線「東岡崎駅」。
岡崎市の中心市街地に位置するこの駅は、1日で3万8千人、年間にすると1千4百万人が利用する市内でも最も利用者の多い駅です。

岡崎市の中心市街地に位置するこの駅は、1日で3万8千人、年間にすると1千4百万人が利用する市内でも最も利用者の多い駅です。

生まれ変わる名鉄本線「東岡崎駅北口」
次の50年に向けて、駅は何を“繋ぐ”のか

化は狭い北口駅前ロータリーを圧迫し、いつもタクシーや一般車が干渉し合い混雑しています。

また、ユニバーサルデザインが叫ばれるようになって久しい昨今においても未だバリアフリー化されていません。

このような状況を踏まえ、将来を見据えた中核市岡崎の玄関口にふさわしい駅とはどういうものなのか、検討を重ねています。

価値観や文化が多様化してきた現代。駅の役割はもはや交通結節点だけではなくなりつつある中、駅は次の50年に向けて、人と何をつないでいくのでしょうか。

グループワークを終えて

今回は、にぎわい広場の計画地を実際に現地で確認し「こんな広場になったらいいな」という、広場計画への方針をまとめることができました（下記）。これを受けて、第2回ワークショップでは、さらに踏み込んで具体的な空間整備イメージを語り合います。なお、第3回目では、市民の皆さんの意見を取り入れた基本構想案を千里建築設計事務所より提案させていただく予定です。

実際のにぎわい広場の整備は平成25年～28年に予定されています。

1. 岡崎の顔となり、岡崎の歴史と文化を語る広場

駅からほどなく、乙川や岡崎城があるよ、というサインやシンボルが欲しい。さらに、食文化を通じて岡崎が伝わる。たとえば、八丁味噌を使った料理が食べられるような工夫をしよう。

2. 自然を感じる広場

開放感溢れる環境をつくりだそう。さらに、乙川や松並木など、自然とのつながりを感じられる広場にしよう。

3. 意味のある階段デザイン

多彩な階段デザインへの提案が提起された。どんな階段デザインがいいのかこだわって議論を進めていこう。

4. 広場外の動きとも連動

広場への提案として、屋台や市場、音楽イベントが挙げられたが、さらに乙川の河川敷や岡崎公園でのイベントとの連携を含め「この広場にこそ必要な機能はなにか」という視点で議論を深めていこう。

5. 日常と非日常で表情の変わる広場

日常的にはホッとできる安息の空間、非日常においては音楽イベントの開催など、その時々に応じて使い分けられるような広場計画を目指そう。

6. 「わ」を感じる広場

歴史ある岡崎のイメージ、そしてこれから50年先の岡崎のイメージ、水と緑などの自然を感じ、日常と非日常（ハレとケ）が交差する、という複合的な要素が調和する「和」のイメージを大切にし、人の「輪」を生み出す場にしていこう。

あなたも一緒ににぎわい広場を創っていきませんか？

「にぎわい広場」市民検討会2

みんなの広場を考えよう！

日 時	平成21年11月29日(日) 13:30～16:30(終了予定)
会 場	明德保育園遊戯室(岡崎市明大寺町3-33)
内 容	前回の振り返り／デザインゲーム／意見交換
参加方法	直接会場へお越しください。 ※駐車場がございません。公共交通機関をご利用ください。

初めての方も
大・歓・迎

主 催 岡崎市都市整備部東岡崎・藤川地区整備課
運営・企画 有限会社 千里建築設計事務所／NPO法人 岡崎まち育てセンター・りた
協 力 NPO法人 岡崎都心再生協議会
編 集 NPO法人 岡崎まち育てセンター・りた

点と点が線となり面へと広がる。新しい駅が、さまざまなものを繋いでゆく。

北口駅前広場整備計画（案）

東岡崎駅北口再整備案（イメージ）
※あくまで案であり決定ではありません。

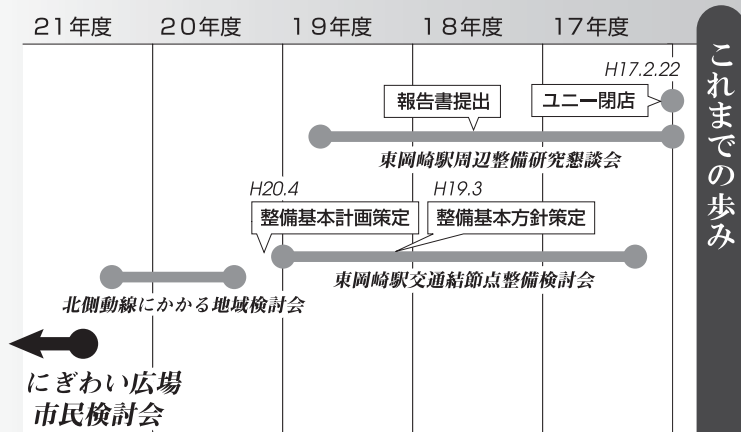


かつてのにぎわいを取り戻し、
活気あるまちに。
**誰もが使いやすい、
にぎわいの交流拠点へ。**

一整備の概要

魅力あふれる中核市・岡崎の玄関口としてふさわしい、誰もが使いやすい、地域のにぎわいを生む駅に再整備するのがこの計画の狙いです。

西に「にぎわい広場」、中央に「橋上駅と駅ビル」「バスターミナル」、東に「一般車とタクシー乗降場」の整備が予定されています。中でも「にぎわい広場」は「多様な都市機能が集積・連携するにぎわいを創造する拠点」とし、地域の活性化につながるものになるよう、市民検討会でみなさんと考えていきます。



3F改札 からの階段 デザイン

空間を楽しめる階段

- ◆ 藤の花がある。
- ◆ できれば岡崎の町を見渡しながらか階段を降りたい。
- ◆ ゆるやかな階段。
- ◆ 1階の雰囲気を感じられるような階段。
- ◆ 周りを見渡しながらか降りることが出来る開放的な階段。
- ◆ スパイラル（囲み）階段で、広場を見渡しながらか下る形状。
- ◆ 緩やかにカーブしながら降りていくイメージの階段。
- ◆ 広場にステージを作った時に、観覧できる位置にある階段。
- ◆ 広場全体を見下ろせる階段。
- ◆ 3階と地階の中段に一休みできる、安らぎの空間が欲しい。
- ◆ 限られた広場の空間を邪魔しないミニマムな階段（北に向かつて一直線）。

- ◆ 1階とのつながりをつくる開放的な階段。

合理的な階段

- ◆ エスカレーター、エレベーターもある。
- ◆ 車いすで階段があがれるように階段用リフトをつける。
- ◆ 花火大会の混雑を避けることのできる形状。須磨海岸での事故のようなことは防ぐ。
- ◆ 踊り場で休憩できる。
- ◆ 毎日使う人のことを考えた動線にして欲しい。
- ◆ 災害時の避難経路。

遊び場としての階段

- ◆ 樹木の間を巡りながら昇降する小径（階段ではなく）。
- ◆ 階段でも楽しめるユニークさを持たせる。
- ◆ スペイン広場の階段で子どもたちがアイスクリームを食べているような光景。
- ◆ 階段の横に滑り台をつける。

情報発信できる階段

- ◆ 階段を昇り降りする間に、城下町を思い起こす。岡崎の香りを感じられる階段。



▲ 熱い思いをぶつけあいます。

- ◆ 階段などの壁面に岡崎の歴史（人物、建物、風景）の絵や写真を飾る。
- ◆ ギャラリーのようであり、食事でもでき、岡崎を感じる客席のようなスペースをつくりたい。

象徴的な階段

- ◆ 広い階段。
- ◆ 昔の矢作橋をイメージした階段。
- ◆ いろいろな方向に枝分かれした階段。
- ◆ 動線がクロスしている（十字型）。
- ◆ どこにもない階段。
- ◆ 上りは「栄光の階段」。下りは「安堵の階段」。これを体現するような階段デザイン。

駅に 期待すること

歴史資源とつながる

- 徳川家康、浄瑠璃姫、本多忠勝。共通する「愛」の心。
- 家康、花火、藤の花（五万石藤）などの資源。
- 歴史性を前面に出した駅舎、駅ビルでありたい（信越線高田駅は上杉謙信をイメージした木造駅舎）。

自然資源とつながる

- 緑と水／松並木。
- 駅を降りて乙川まで行き、川辺で水遊びが出来る。景観を眺めることで、川でも憩える。
- 乙川と城址公園との連続性（ソウル清溪川（チョンゲチョン）を参考）。
- 乙川の水の回廊、緑の回廊。
- 小径階段とリンクした歩道。
- 川の流れを表現する。

まち、文化とつながる

- 産業／石畳／食文化など。
- 駅周辺施設との連携。
- 岡崎といえば人の温かさ。この良さをどうにか伝えたい。
- 人と人がつながること、地域と地域をつなぐ。

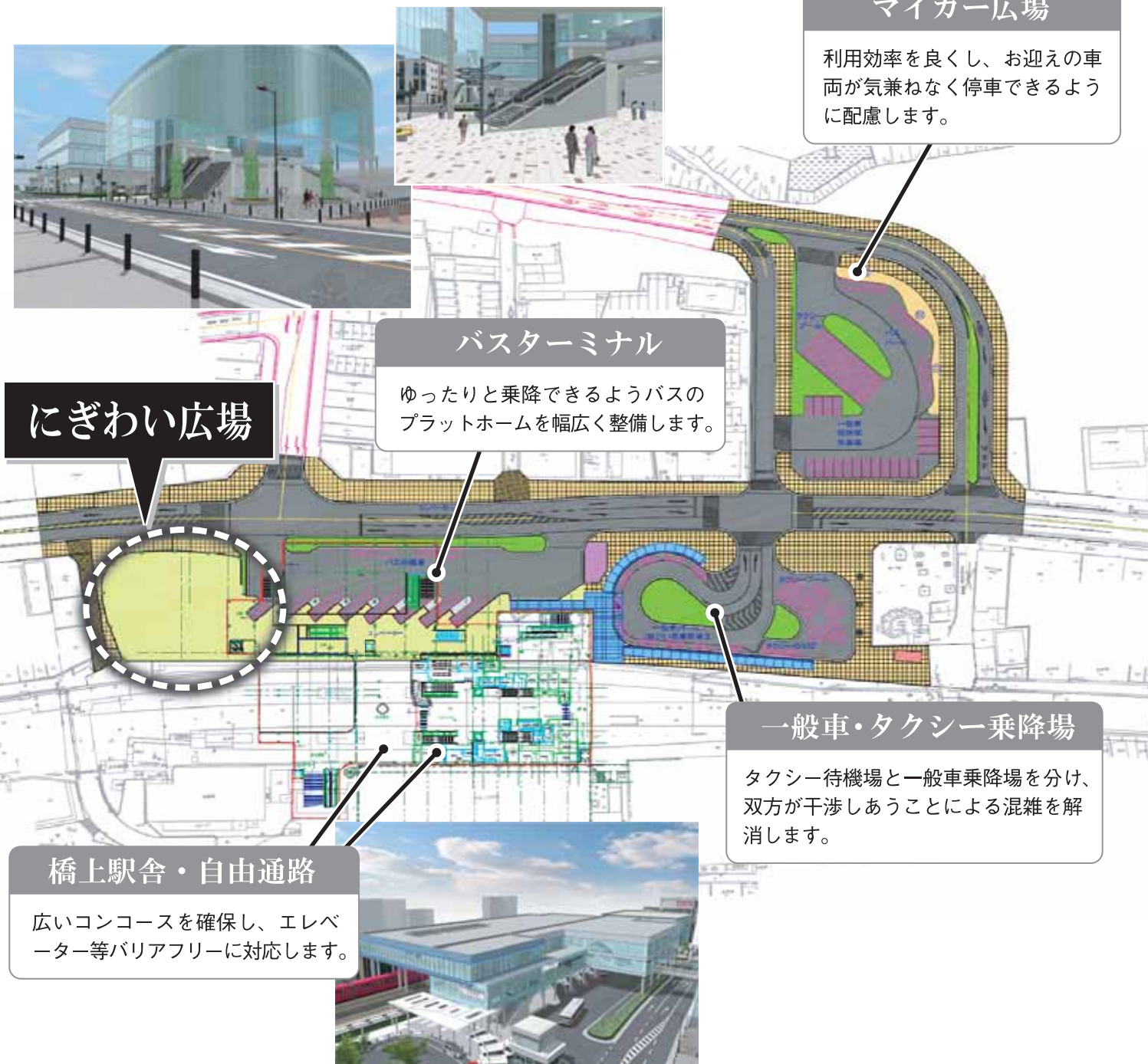
開放感の演出

- 岡崎の町並みへ勇んで飛び出そう、と思えるような眺望があるように。
- 隣接した既存建物の見え方もポイントであり、もう少し意識した景観にならないか。
- 駅ビルが備える機能を知った上で、駅の機能の一部とするか、プラスαの機能とするか検討したい。
- 岡崎の立体ジオラマを設置。

その他の工夫

- にぎわい広場への案内機能が必要である。
- 待ち合わせ場所とするには、タクシー乗り場やバス乗りの場の真ん中にあるべき。そうすれば、にぎわい広場から松もみることができ、開けた空間になる。

計画概要図(素案)



市民と共につくる にぎわい広場

市民検討会とは？

第1回 11月1日(日)

現地を確認し、駅とまちをつなぐ広場をイメージしよう

第2回 11月29日(日)

広場のイメージを形にしよう

第3回 1月24日(日)

構想案をまとめよう(仮)

北口に新設されるにぎわい広場。

この計画に市民の声を大きく反映します。
その入口となるのがこの市民検討会です。

step 3

具現化するためにはどうしたらよいか、イメージを膨らませよう

想いを実現する駅とは？

広場の機能

日常に根ざした駅

- 地域の人が使いやすいことが1番。
- 老若の話し合いの場、たまり場、24時間開放されている。
- 立ち寄っていいこうと思える。
- 待合から出合いの場へ(外国人と地元の人、親と子、男と女、仲間)。
- 駅のホームから広場が見えるので、それを活かす。
- 楽しく動きのある映像が流れる空間(康生のまちがリアルタイムで映るなど)。
- 視覚的、聴覚的に楽しく、デザインと動きのあるしかけをつくる。

非日常を演出する駅

- 各種イベントを開催してはどうか(地域の人、市民が催すイベント/コンサート/市場/大道芸/お祭り/研究所や産業/大学の展示会/路上ライブなど)。
- 家康行列やジャズストリートなどのイベント時にアピールする場にする。
- 床画(床に写真や絵を描く)。
- 年代によって見せ方を工夫。
- ジンクスを作る(鐘を撞くと結ばれるなど)。
- 可動式せり舞台を設置する。
- 岡崎をアピールする映像を流す。



▲ 多くの方にご参加いただきました。

自然を感じる駅

- お日様を見ることが出来る。
- 子どもが水辺で遊んでいる。
- 水や鳥の鳴き声などが聞こえる空間。
- 日向ぼっこできる。

安らぎ、憩う駅

- やすらぎとにぎわいがある。
- 子どもがちよつとした遊具で遊んでいる。
- 緑や水に囲まれてほっと一息(時間の流れに感動を)。
- デザイン性のあるベンチがおいてあり、自由にのびのびと読書できるといいな。
- 休憩できる空間が欲しい。
- 傾斜をなくして車いすの方も集えるといい。
- 人工の小川をつくって、小さい子どもと水遊びをして時間を過したい。
- 分煙をし、喫煙コーナーでのんびり休憩したい。

飲食

- 屋台バスや移動式の飲食店がある。椅子テーブルが並んでいて、一休みできる場所。
- 岡崎の名物(味噌田楽、八丁味噌など)を使った食べ物食べられる場所。
- 岡崎市内の銘菓などが食べられるお茶屋さんがある。
- 大判焼きなど、子どもでも食べられるものがあるといふ。
- オープンカフェ。
- おにぎりを持参して食べても恥ずかしいくない雰囲気。

機能的な駅

- 街情報が入手でき、イベントやお店や観光地が紹介される情報発信ができるという。
- 災害時の一時避難場所として整備してほしい。
- 屋上にソーラーパネルを設置する。
- 野菜の即売店などで地域産物を購入したい。

『岡崎の玄関口』として、『次の50年につながる駅』として市民が求める広場の機能とは？「に」「ぎ」「わ」「い」の4グループにわかれグループワークを行いました。

市民検討会

グループワーク

にぎわい広場活用GW

『記憶に残る空間の広がり』

1. 岡崎らしさ

- ・ これからの岡崎らしさを創っていく。
- ・ にぎわい広場に降りると、岡崎を感じられる。

2. 出会いと別れの物語の舞台

- ・ 都心のオアシスとして「森」「乙川」「城址公園」をつなぐ。
- ・ 映画「ローマの休日」のように、階段で物語が生まれる。

3. とどまれる、溜まりの空間

- ・ ちょっと立ち寄りたくなる場所。
- ・ 時と共に、みんなの愛着が積み重なる場。

4. 明るさ

- ・ 歴史的景観に配慮したデザイン。
- ・ 太陽光いっぱいの明るい広場、芝生のある広場。
- ・ 設備品は最低限で広々としている。
- ・ 昼は太陽、夜は照明で明るさを確保。

5. 自然と自由

- ・ 活動の制限をなくし、自由な活動ができる。
- ・ 自然発生的な行為を誘発する。
- ・ 有機的なものの集積。

『解放（開放）された日本屋内庭園』

1. 広場の意義

- ・ 広場には、自然と人が寄ってくるもの。この広場は、通りの一部とするのか、広場の要素を持たすのであれば滞留させるための方法考えていかなければならない。

2. 地域資源を岡崎の財産として遺していく場所

- ・ 地域が持っている資源（駅と川）をつなぐための場所。
- ・ にぎわいのある岡崎の玄関口としての顔となる場所。
- ・ 50年後の岡崎を映し出すもの。
- ・ 地域の財産（樹木、白鳥、木製腰掛）となる場所。

3. 開放（解放）された場所

- ・ 開けた空間がないので、開放感のあるものにしたい。
- ・ 老若男女や外国人などが気軽に集える空間が望ましい。
- ・ 活用を考えると屋根がほしい。
- ・ 自然に人が集まる場所、リラックスできる場所。

4. 共感できる場所

- ・ みんなで色々やりながら、愛と幸せが溢れる場所。

5. 岡崎案内人

- ・ 岡崎についての代表的な情報から、細かな路地裏までの情報がある。

『岡崎を語る憩いの広場』

1. ホットとできる場所

- ・ 開放感を感じられ、なんとなくたまりたい空間。
- ・ 明るく元気に、次に進んでいけるような優しい場所。
- ・ 地元商店街に波及効果がある場所。
- ・ 子どもが、また行きたいと思える場所にしたい。
- ・ いつでも人がいて、お弁当を食べたり、トランプゲームなどを行っている場所。
- ・ オープンカフェのように、暇つぶしが出来るような落ち着いた場所。
- ・ 人が集まる原っぱのような場所。待ち合わせのできる場所。

2. イベントがある場所

- ・ 毎日、コンサートやイベントが行われる場所。
- ・ 市民の趣味の発表会やイベントが常に行われる広場。

3. 岡崎をアピールする場所

- ・ モニュメント、ブロンズ製の家康像を建て、観光の岡崎をアピール。

『竹千代に出会える広場』

1. やすらぎ・憩いの場

- ・ ベンチを置き、話し合いや休憩ができる。
- ・ みんなが集える憩いの場、情報発信できる場。
- ・ 時間を忘れるような空間。
- ・ 木陰やベンチでのんびりでき、風を感じられるような開放的な場所。

2. 活気のある場・交流できる場

- ・ 軽くて（重々しくない）元気なイメージを持てる場。
- ・ 音楽などイベントのできる広場。市民交流の場。

3. 街への起点となる場・街と繋がりをもった場

- ・ 街へ人が広がっていく起点。
- ・ 康生の籠田公園のイベント機能を東岡崎地区でも持つ。
- ・ 岡ビル、岡崎城、乙川など地域にある資源を感じることができる賑わいの場所。

新しい広場に何を期待する？自己紹介を兼ねて、想いを語りました。

データ 実施日時：平成21年11月1日 場所：明德保育園
参加者：41名（男性34名 女性7名 / 10歳代～70歳代）

step 1

実際に現場を見てみよう！

東岡崎駅／駅ビルをまち歩き

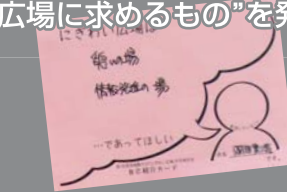


参加者全員に東岡崎駅へ移動していただき、実際に現場を確認してもらいました。

step 2

想いを語ろう！

“広場に求めるもの”を発表



グループに分かれ、自己紹介を兼ねて広場への想いを発表しました。

step 3

イメージを膨らませよう！

“想いを実現する駅”を検討



想いを実現する駅について検討し、意見交換しました。



チェックポイント

- ①新しい駅の壁面は？
- ②広場の大きさは？
- ③高低差は？
- ④駅利用者は？
- ⑤周辺の建物は？





この先の50年、未来の岡崎を映し出す地域資源は何ですか？







◀ 駅ビル3階からの眺望も確認

step 1

実際に現場を見れば新しい発見がある

東岡崎駅／駅ビルをまち歩き

4